

## 早期臨床体験実習

科目責任者 千 田 雅 之  
学年・学期 1 学年・2 学期

### I. 前 文

本科目は、医学生としての自覚をもち、医師への動機をつけることを目的とした臨床医学実習のひとつである。

1 学年次から医師の業務を見学することで、チーム医療とは何か、医師はどうあるべきかを常に自分自身に問いかけ、医師となるためのモチベーションを高く維持してほしい。

### II. 担当教員

臨床医学教員（詳細は改めて連絡する）

### III. 一般学習目標

医療現場を体験することにより、医学生としての自覚を深め、医学を学ぶことへの関心を高める。

また、優れた医師になるため、医学生として備えておくべき基本的態度・姿勢を修得する。

### IV. 学修の到達目標

1. 医師の日常業務を理解する。
2. 医学を学ぶことへの動機づけを行う。
3. 多職種が連携して成り立つ病院の機能を知る。
4. 医学部は社会に開かれた学部であることを自覚する。

### V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
	9	21	水	1～7	オリエンテーション・大学病院診療科配属実習	各科担当教員	
		22	木	1～7	大学病院診療科配属実習	各科担当教員	

### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

実習時の態度等、総合的に判断する。

評価については詳細は、オリエンテーション時に説明をする予定。

### VII. 教科書・参考図書・A V 資料

オリエンテーション前に資料（実施概要）を配布する。

### VIII. 質問への対応方法

実施内容については「実施概要」を配布時に随時受けつける（教務課）

実習時の質問については各担当教員に実習中に質問すること。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の場で講評・解説します。

## XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：配属になった診療科について調べておくこと（所要時間の目安：20分）

事後学習：体験内容をレポート作成すること（所要時間の目安：30分）

## XII. コアカリ記号・番号

A-4-1) ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。